



(静岡)

る。

## 静岡・駿府城三の丸跡

所在地 静岡市追手町

調査期間 一九九三年(平5) 一月～六月

発掘機関 静岡県教育委員会

調査担当者 関野哲夫・及川 司・河合 修・中鉢賢一

遺跡の種類 集落跡・城跡

遺跡の年代 古墳時代後期・奈良時代～江戸時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査は県庁別館の建設に伴って実施された。東側隣接地(駐車場

建設地)から出土の木簡についてはすでに本誌第九号に報告がなさ

れている。

今回の調査地点は「駿府

城御城絵図」によると、三

の丸のうち、「御城代向屋

敷」に相当しているが、明

治以降の攪乱により、近世

駿府城の遺構としては井戸、  
土坑が検出されたのみであ  
る。

木簡が出土したのは流路S.R.O.一で、駐車場地点の木簡が出土し  
た流路に続くものである。幅七～九m、深さ一～二m程で、覆土は  
上層(シルトと砂の互層)と下層(青灰色粘土層)に分かれる。遺物の  
大半が下層からの出土で、木簡(1)は土師質土器、陶磁器、漆器椀、  
曲物、櫛、しゃもじ、下駄、陽物形木製品などとともに下層から出  
土し、(2)は上層と下層の境から出土した。

三の丸は、慶長一二年(一六〇七)の修築の際、本丸、一の丸ま  
でであった天正期の駿府城を拡張したものといわれる(「当代記」)。  
流路の年代は慶長一二年以前と考えられる。

## 8 木簡の釈文・内容

(1) • 「▽□□□□」  
〔座カ〕

• 「▽□□□□」

(2) • 「▽□□□□」  
• 「▽□□□□」

• 「▽□□□□」  
• 「▽□□□□」

134×24×2 032

(1)(2)とも上部左右両側に切り込みが入る。いずれも表裏に文字が  
書かれている。(1)の表第四字は小さく右に寄せて書かれている。(2)  
は一片に分離し、上端の一部が欠損する。表は中央に文字の書かれ  
ない余白がある。裏も中央に余白をおいて仮名四文字が続く。(1)(2)  
とも表裏で文字の始まる位置に差がある。

なお、木簡の釈読にあたっては、原秀三郎・湯之上隆両氏のご教示を得た。

## 9 関係文献

静岡県教育委員会『駿府城三の丸跡・駿府城内遺跡』（一九九四年）

（佐藤正知）

## 静岡・駿府城跡

すんぶじょうあと

1 所在地 一 静岡市駿府町、二・三 静岡市駿府公園  
2 調査期間 一 一九八七年（昭62）一月～一九八八年一〇月、二 一九九〇年（平2）五月～一九九一年五月

3 発掘機関 静岡市教育委員会  
4 調査担当者 一 伊藤寿夫・岡村 渉、二 山本宏司・八木広尚・稻 智穂、三 山本宏司・岩田智穂

5 遺跡の種類 城館跡  
6 遺跡の年代 中世～近世

## 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



（静 岡）

駿府城跡は、安倍川によつて形成された扇状地（静岡平野）の中央を南に延びる微高地上に所在する。標高約二二mのこの微高地は比較的安定した場所であり、弥生時代中期から近世まで

